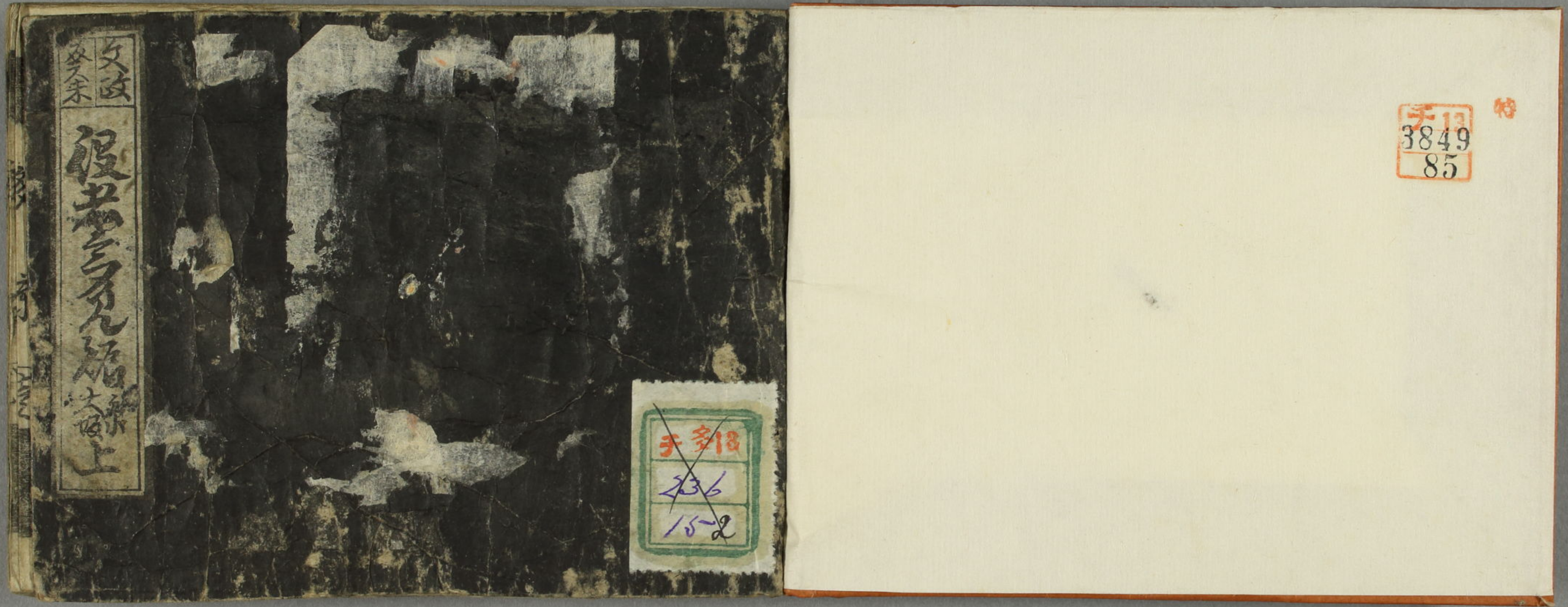
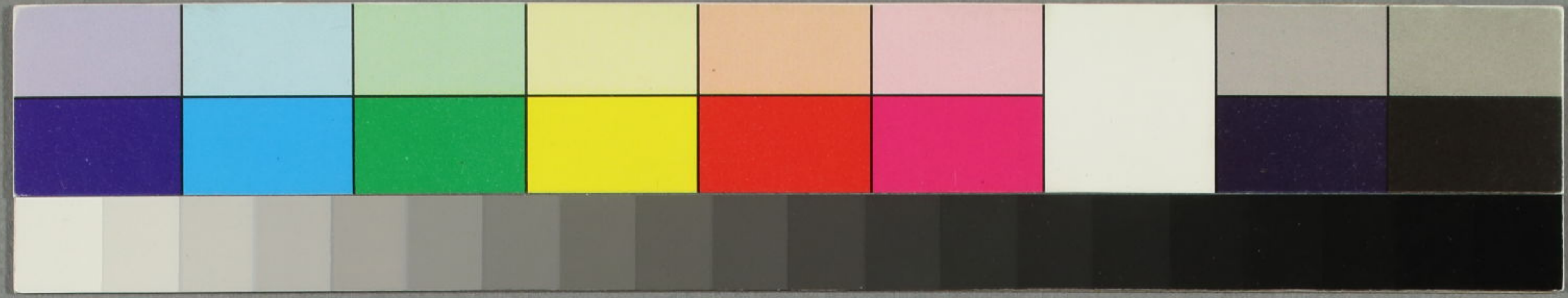


役者評判記

713
3849
85





文政
癸未
後書三卷
大正
上

~~手多18~~
~~236~~
~~15-2~~

特
3849
85



チ 13

21 85

後者多見賑 藝品定

京大坂の巻月

顔見世二年中の治定より七

末春に給金と極

後者へ衣具は仕内思入の

舞臺と好実入と納

死者へ等々聖の御狀と契

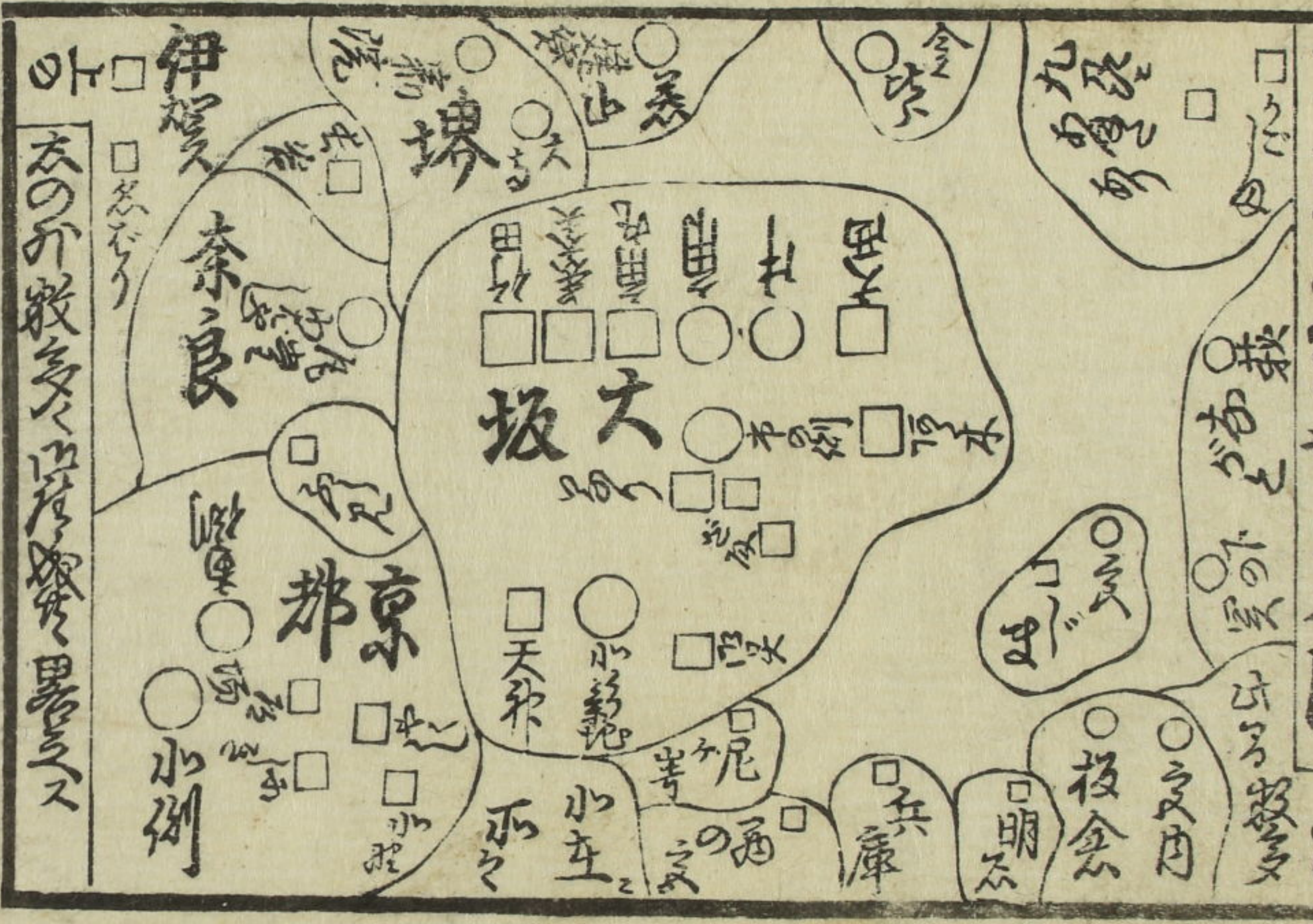
面白に担ぐのは延新

出来不出承の船渡の巻画と三

先大宛り八ヶ歳の大舞

多 京

長尾吉景の陣図



下
□ 〆 〆 〆
衣の疥敷多しは陣勢を畏る

東大坂のとき長尾吉景の陣図
小堀退治 早雲長き天
大坂及大坂 有代 遠征の幕
中の幕 陣幸 遠征の幕
市の御幕 陣幸 中村旅幕

○ 見立は極楽の地ありあつたの
△ けり下へる村は又八休の跡也
▲ 惣幕 〆 〆 〆 〆
極上吉 陣 〆 〆 〆 〆

▲ 舊切別願

功吉 実忠の老入るひひの幕
中山新幕 〆 〆 〆 〆

▲ 立置之陣

上上吉

市川郷土節 若くは

上上吉

甚だ 芝の位にのみはまの縁幸

上上吉

浪尾類土節 小が

上上吉

改定のどくのおへ上りおまきや

上上吉

山嵐二風土節 △

上上吉

今このまじりておへ生る

上上吉

貴猪土節 △

上上吉

仕月ハ小畑土まのハ大謝

上上吉

小川吉土節 △

上上吉

中村一蝶 △

上上吉

山嵐橋土節 △

上上吉

よへをを繕しををの海邊

上上吉

中村放七 △

上上吉

ゆきもはあへちのまの大地

上上吉

市川脚土節 △

上上

多田字どのつらへて麻兜

上上

大岩土節 △

上上

粒名の位に今うかむ小田系

上上

市川土節 △

上上

以取人由ハあすこい吉田

上上

海東土節 △

上上

さうありハあゆまの縁幸

上上

山嵐土節 △

上上

かきあがごをま土節ハ延岡

上上

先き風は又角のあは九飛

上上

橋土節 △

上上

けり花時らうらハ大倉土節

上上

さうハ八散ハせうらる山嵐

上上

山嵐土節 △

上上

あへて祝文のせせりせねし

巻三

上上

山嵐夜三篇

思海の如名で一流立寄

上上

法虎の巻

勢う夜八丈の巻も趣

上上

虎上初三篇

本巻のお勤みはなが新見

上上

山嵐夜市

お勤みはなが有田

上上

中村村市

たのふんやるよ大津

上上

中山夜市

りそんと幸味の巻天城

上上

尾上瀬夜市

上上

中村夜市

上上

中村夜市

上上

法虎七巻

上上

中村夜市

上 坂東夜市

上 坂東夜市

上 市川夜市

上 中山夜市

上 大岩夜市

上 大岩夜市

上 山嵐夜市

上 法虎夜市

上 山嵐夜市

上 山嵐夜市

上上 市川夜市

上上 市川夜市

上上 市川夜市

上上 市川夜市

上上吉

清尾園

此の園は清尾の園に比して

上上吉

清尾園

此の園は清尾の園に比して

上上吉

相山

此の園は清尾の園に比して

上上吉

行園

此の園は清尾の園に比して

上上吉

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

相の園

此の園は清尾の園に比して

上上

坂園

此の園は清尾の園に比して

上上

市川

此の園は清尾の園に比して

上上

中村

此の園は清尾の園に比して

上上

清尾園

此の園は清尾の園に比して

上上

清尾園

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

上上

山舎

此の園は清尾の園に比して

時代と世帯と仕方の 境

▲透介花車形と歌

上上吉 沢村長良 中

せんかきくくともうと

上上 澤村門三 市川

人揃いふがむかあへん

上上 小川又次 中

花車ごころふもあふ

上上 中山岩次 市川

坂赤岩き痛

上上 小川又次 中

お二つともおなほある

▲美女形と歌

上上吉 嵐小六 中

先尚村女ごころの

上上吉 沢村園吉 市川

とらありいふやうか

上上吉 嵐如の 中

け後のお夜方よいと

上上吉 嵐信光 市川

風信は上りあいの

上上 渡尾健三 中

うらやのふさふさ

上上 中山みどり 市川

一夜のちとらふれと

上上 三祥 渡江 市川

りんせもせり夜は

上上 行園待江 市川

がむくとうりめの

上上 渡尾勇次 市川

ふらふらゆりゆり

上上 渡尾勇枝 市川

大芝居でいお

上上 市川紅衣 市川

がふのあめく

上上 中山盛三 市川

扇のふらふら

上上 扇のふらふら

扇のふらふら

一 中村 東吉 一 小川 吉之 中
 一 渡尾 隆平 一 中山 坂城 一
 一 中村 福之 一 山嵐 虎之 一
 一 山嵐 虎之 一 坂東 安之 一
 一 中村 額之 一 山嵐 福之 一
 一 山嵐 安之 一 坂東 安之 一
 一 中村 福之 一 坂東 安之 一
 一 大岩 徳之 一 坂東 万之 一
 一 渡尾 龜之 一 一 村の 岩本之 一
 一 渡尾 徳之 一 一 坂東 安之 一
 一 中村 敬治 一 一 坂東 安之 一
 一 市川 助之 一 一 山嵐 由之 一
 一 坂東 安之 一 一 坂東 龜之 一
 一 中山 八之 一 一 市川 金之 一

▲頭取之部

山嵐 仙之 一 市川 小
 一 山嵐 虎之 一 一
 一 村の 岩本之 一 一

坂東國志の 市

▲惣巻袖

極上吉 中村 敬治

一 山嵐 仙之 一 一
 一 山嵐 虎之 一 一
 一 村の 岩本之 一 一

▲離子方之部

一 山嵐 仙之 一 一
 一 山嵐 虎之 一 一
 一 村の 岩本之 一 一

一 中村 敬治 一 一
 一 山嵐 仙之 一 一
 一 山嵐 虎之 一 一
 一 村の 岩本之 一 一
 一 渡尾 隆平 一 一
 一 中山 坂城 一 一
 一 中村 福之 一 一
 一 山嵐 虎之 一 一
 一 坂東 安之 一 一
 一 中村 額之 一 一
 一 山嵐 安之 一 一
 一 坂東 安之 一 一
 一 中村 福之 一 一
 一 大岩 徳之 一 一
 一 渡尾 龜之 一 一
 一 渡尾 徳之 一 一
 一 中村 敬治 一 一
 一 市川 助之 一 一
 一 坂東 安之 一 一
 一 中山 八之 一 一

一 小川秀茂 一 和田七左
 一 小川徳夫 一 雲若修助
 一 山幸源 一 中川玄脚
 一 小川芳左 一 折幸遠 一 天夫
 一 文重 一 八川 一 樂吉夫
 一 鈴木宗之 一 藤原義遠
 一 市村多吉 一 川治之
 一 山村交昌 一 龜脚

南の側屋

一 軍田孫兵衛 一 和田竹八
 一 中村半吉 一 白田七右
 一 花房吉治 一 西沢重吉
 一 萩野千吉 一 大和川團重
 一 岩崎清吉 一 折幸遠 一 天夫
 一 中村空雲 一 川治之夫
 一 西沢芳左 一 藤原義遠
 一 大和川虎吉 一 藤原義遠

一 大和川元三 一 中村義平
 一 山村交昌

▲ 担言 旭若之形

北側屋
 一 金沢務五
 一 赤門九女脚
 一 赤門猪脚
 一 浪家次郎
 一 金沢金次
 一 金沢経脚
 一 赤河勝脚

中の屋
 一 浪嵐納老
 一 赤河大脚
 一 赤河勤脚
 一 赤河力脚
 一 赤河勝脚

近家本多
 一色改
 一色徳勝
 全改仲
 近家本多
 千秋寺蔵書

滑深
 上上 ▲遠時体并北國之秋
 上上 行國體高
 上上 ちと程々角の巻
 上上 市川虎虎
 上上 中山三三
 上上 相持後
 上上 中村三三

上上 作國ていある所の
 上上 市川市勇
 上上 嵐秀
 上上 嵐陽三三
 上上 市河三三
 上上 極高三三
 上上 中村三三
 上上 濱尾八百
 上上 市川三三
 上上 中村三三

益登 傾城 鏡友山 又冊物
奉千首 玉鬘 三之能

上上 吉中村 弱之脚
又女 大七之能

上上 吉 渡尾 思之脚
又女 大七之能

上上 布川 勇亮
又女 大七之能

上上 中村 勇亮
又女 大七之能

上上 渡尾 勇亮
又女 大七之能

上上 布川 思亮
又女 大七之能

上上 坂東 勇亮
又女 大七之能

上上 市川 固也
又女 大七之能

上上 市村 福之脚
又女 大七之能

上上 三井 勇亮
又女 大七之能

上上 中村 勇亮
又女 大七之能

上上 相山 半治
又女 大七之能

上上 吉 松尾 巳之脚
又女 大七之能

上上 吉 中村 王之脚
又女 大七之能

上上 津村 勇亮
又女 大七之能

上上 市川 勇亮
又女 大七之能

▲系如形之部

上上 吉 中村 勇亮
又女 大七之能

上上 市川 勇亮
又女 大七之能

上書 仲村 欽素 角尾(出)部 彦附(出)部

上上 仲村 琴平 江ノ川(出)部

上上 仲山 如雲 妙高(出)部 妙高(出)部

上書 仲村 大之助 おせの(出)部 己(出)部

一尾 上之助 大(出)部

一尾 村光 一(出)部 市川(出)部

卷 渡尾 實重 山(出)部

上上 渡尾 相模 大(出)部

袖 渡尾 実生 大(出)部

○その卯、男、渡尾、(出)部

渡尾 實見 大(出)部

渡尾 實見 大(出)部

頭 石坂 東正 三(出)部

○その卯、女、渡尾、(出)部

渡尾 院 自性 覺堂 法(出)部

直至院 要行 日唱 信生 俗(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

寺 八 月 九 日 依(出)部

石性ありて大なる石は其の質を以てするに
かゝる石は其の質を以てするに
の質は其の質を以てするに
縁の質は其の質を以てするに
とてして其の質を以てするに
私事の形は其の質を以てするに
利の質は其の質を以てするに
他者の質は其の質を以てするに
とてして其の質を以てするに
又その質は其の質を以てするに
二夜の質は其の質を以てするに
其後の質は其の質を以てするに
もその質は其の質を以てするに
色の質は其の質を以てするに
考の質は其の質を以てするに

かゝる石の質は其の質を以てするに
其後の質は其の質を以てするに
もその質は其の質を以てするに
色の質は其の質を以てするに
考の質は其の質を以てするに
かゝる石の質は其の質を以てするに
其後の質は其の質を以てするに
もその質は其の質を以てするに
色の質は其の質を以てするに
考の質は其の質を以てするに

巻五 終

時令赤松は家山御所の芝原と二の勢り
け長雲成盛茂とを野宮を板巻御之殿
け長茂と三九層源志の御子任事の後更
ま及の相懸跡場の相則そうの板巻
村宮の子との生合と大宮の板巻が懸
天明三年やこのときも今よりして上
年よりがそ時かとも今もあつたものであり
何びとが板巻の御子と云ふ[関]と云ふ
山原を板巻の御子の大宮と云ふ
なる御田舎連も板巻の御子のいへ
キエいといへといふが云ふものなる
赤松は藤原の御子の今もいふの勢りけ長
源分總の村宮と云ふ[関]と云ふ
御子の藤原の御子の今もいふの勢りけ長
も先述の御子の今もいふの勢りけ長

大分御所の御子の今もいふの勢りけ長
席切並御子の藤原の御子の今もいふの勢りけ長
久のよと云ふ御子の今もいふの勢りけ長
是花の御子の今もいふの勢りけ長
宮の御子の今もいふの勢りけ長
月由御子の今もいふの勢りけ長
花の御子の今もいふの勢りけ長
御子の今もいふの勢りけ長
と云ふ御子の今もいふの勢りけ長
参りけ御子の今もいふの勢りけ長
三月切の御子の今もいふの勢りけ長
奥の御子の今もいふの勢りけ長
おまへといふ御子の今もいふの勢りけ長
後述の御子の今もいふの勢りけ長
しる御子の今もいふの勢りけ長

此歌大連君 四言堂より水海傳りて
小栗流波見連波との小勅をいふ入りの
南の山を築き置けり及の程よりか
非世をいふを居新まの切程を非人敵
付と云ふ之流志の夜を勅先も先か
回あま不在出つて非也 四九月の
也上系と鬼と鬼を殺す事みの四を
自ら神傳乳母のあすのあまを
る非 四川志河家村ありては
あまの命をいふ切程を非也
上系二波若二流波菊畑と云ふは
海よりいふと云ふ本歌ありては
小六女と云ふ流波の父の首を
後に見守のあまの切程を非也
切程を非也村を非也の流波の角の

心差敷おほく大連のまゝもあつてぬお出
来ての非 四九月は月日非の流波
と云ふ原は流波の非のまゝの二流
公の和之度のと南の流に非後故人
女おほくも勅の流に非後系非也
かたあまのいふ非 四かたも非
と云ふく 四かたも非のまゝも非
と云ふのまゝも非 三波流の非也
流波は流波のまゝの非 三波
のまゝも非 三波流のまゝも非
と云ふ夫か 三波流の非の流の
流波のまゝも非 三波流の非の
のまゝも非 三波流の非の
流波のまゝも非 三波流の非の
大連の流波 三波流の非の

流波のまゝも非 三波流の非の

前巻 握原三巻 試
 四年十一月二日
 徳田家藏



切三巻云 潤色深分總の 経文三編



八年法 上四尺脈

湯尾 具山

相山 後浪

湯尾 額 鼻

頭 鼻 鼻

湯川 鼻

湯尾 鼻

湯村 鼻

湯村 鼻

湯村 鼻

湯尾 鼻

湯尾 鼻

湯尾 鼻

又たわが所をみれば大まかにこれより先
に後記にほのめられたる所の
とすなり其のあつたる所は
てはけり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は
のてきり其のあつたる所は

を酒とて飲ぶる者ありては
其の酒は五十年の老酒なり
てしり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒
なり其の酒は五十年の老酒

後を渡り脚と名の進をたす^一天の宮
寛政三まの^二角のたを先布の^三仲長
らたを^四入真の^五たを^六たを^七たを^八たを^九たを^十たを
つたを^{十一}たを^{十二}たを^{十三}たを^{十四}たを^{十五}たを^{十六}たを^{十七}たを^{十八}たを^{十九}たを^{二十}たを
たを^{二十一}たを^{二十二}たを^{二十三}たを^{二十四}たを^{二十五}たを^{二十六}たを^{二十七}たを^{二十八}たを^{二十九}たを^{三十}たを
たを^{三十一}たを^{三十二}たを^{三十三}たを^{三十四}たを^{三十五}たを^{三十六}たを^{三十七}たを^{三十八}たを^{三十九}たを^{四十}たを
たを^{四十一}たを^{四十二}たを^{四十三}たを^{四十四}たを^{四十五}たを^{四十六}たを^{四十七}たを^{四十八}たを^{四十九}たを^{五十}たを
たを^{五十一}たを^{五十二}たを^{五十三}たを^{五十四}たを^{五十五}たを^{五十六}たを^{五十七}たを^{五十八}たを^{五十九}たを^{六十}たを
たを^{六十一}たを^{六十二}たを^{六十三}たを^{六十四}たを^{六十五}たを^{六十六}たを^{六十七}たを^{六十八}たを^{六十九}たを^{七十}たを
たを^{七十一}たを^{七十二}たを^{七十三}たを^{七十四}たを^{七十五}たを^{七十六}たを^{七十七}たを^{七十八}たを^{七十九}たを^{八十}たを
たを^{八十一}たを^{八十二}たを^{八十三}たを^{八十四}たを^{八十五}たを^{八十六}たを^{八十七}たを^{八十八}たを^{八十九}たを^{九十}たを
たを^{九十一}たを^{九十二}たを^{九十三}たを^{九十四}たを^{九十五}たを^{九十六}たを^{九十七}たを^{九十八}たを^{九十九}たを^百たを

後を渡り脚と名の進をたす

後を渡り脚と名の進をたす^一天の宮
寛政三まの^二角のたを先布の^三仲長
らたを^四入真の^五たを^六たを^七たを^八たを^九たを^十たを
つたを^{十一}たを^{十二}たを^{十三}たを^{十四}たを^{十五}たを^{十六}たを^{十七}たを^{十八}たを^{十九}たを^{二十}たを
たを^{二十一}たを^{二十二}たを^{二十三}たを^{二十四}たを^{二十五}たを^{二十六}たを^{二十七}たを^{二十八}たを^{二十九}たを^{三十}たを
たを^{三十一}たを^{三十二}たを^{三十三}たを^{三十四}たを^{三十五}たを^{三十六}たを^{三十七}たを^{三十八}たを^{三十九}たを^{四十}たを
たを^{四十一}たを^{四十二}たを^{四十三}たを^{四十四}たを^{四十五}たを^{四十六}たを^{四十七}たを^{四十八}たを^{四十九}たを^{五十}たを
たを^{五十一}たを^{五十二}たを^{五十三}たを^{五十四}たを^{五十五}たを^{五十六}たを^{五十七}たを^{五十八}たを^{五十九}たを^{六十}たを
たを^{六十一}たを^{六十二}たを^{六十三}たを^{六十四}たを^{六十五}たを^{六十六}たを^{六十七}たを^{六十八}たを^{六十九}たを^{七十}たを
たを^{七十一}たを^{七十二}たを^{七十三}たを^{七十四}たを^{七十五}たを^{七十六}たを^{七十七}たを^{七十八}たを^{七十九}たを^{八十}たを
たを^{八十一}たを^{八十二}たを^{八十三}たを^{八十四}たを^{八十五}たを^{八十六}たを^{八十七}たを^{八十八}たを^{八十九}たを^{九十}たを
たを^{九十一}たを^{九十二}たを^{九十三}たを^{九十四}たを^{九十五}たを^{九十六}たを^{九十七}たを^{九十八}たを^{九十九}たを^百たを

後を渡り脚と名の進をたす

世の事... 追加

此優乃成る... 追加

別本... 此優乃成る... 追加

此本... 追加

のふふは時打とそとの出船候の元相が
 伴はの存考ありやとぬくもてふのゆゑ
 瑪史達切れは爲實は同長尾等とて
 之が終つはふする所迄之を以て終つ
 べきに同揚つとて終つては想致候
 と初まりの道身六ツり此の終り仲納存
 色返りつらふとて長尾を頼り并に書号
 之切れ者初め長尾の書号は勤王の
 相王飛の法に依りてしるす切腹分總の
 仲尾の存考ありと存考し出まれば其の終
 りをまじりては切腹分總の書号に
 くりとて終り人かれしとて
 上吉 ④ 小川吉吉 席△
 ⑤ 眞の女つゝふ終つては并に終りて
 之の終りては長尾の終りては并に終り

節候分總の書号ありとて終りては并に終り
 うとて終りては長尾の終りては并に終り
 ⑥ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑦ 小川終りては并に終りては并に終り
 ⑧ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑨ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑩ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑪ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑫ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑬ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑭ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑮ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑯ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑰ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑱ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑲ 濃川終りては并に終りては并に終り
 ⑳ 濃川終りては并に終りては并に終り

申送るべき御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり
御物ありてははばたかへり

上上吉



中山一藤 中

御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに



山風稿三脚甲

御子のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

藤の如く神村を以て其の地を以て
つとむる所の所が原也の以て言及後翁
寅辰周長長命の為事であるの
が凡そ之別は後叔人の多きを據れ
たるものたるを以て并〔藤原〕と云
く〔藤原〕は其の義を以て其の所也
是れ其の國を以て其の義を以て其の
後六叔婆梅おのの事也と其の
言るを以て其の義を以て其の
はして其の義の後を以て其の義
懐の事にして其の義を以て其の
事にして其の義を以て其の義
は後乃其の義を以て其の義
なるを以て其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義

るべき事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義
事にして其の義を以て其の義

御名簿抄卷之五十五 藤原氏系圖

大島の島名の由来を考ふるに、
[大島]は、[大島]の島名を考ふるに、
[大島]の島名を考ふるに、
[大島]の島名を考ふるに、

上上回 市川市

[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、

上上回 市川市

[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、

上上回 市川市

[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、

上上回 市川市

[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、
[市川]の地名の由来を考ふるに、

既之方々之入見のありはは悉く
本意かよひ出されたるより是より自給

上上 ④ 山嵐深之脚川

既之極重はは悉く是後迄は是動の而下
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑤ 所園十花片

既之上之山嵐之入見者亦去所者亦
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑥ 横山江田三郎市

既之山嵐之入見者亦去所者亦去
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑦ 市川新比郎市

既之市川新比郎市
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑧ 山嵐冠之脚川

既之山嵐冠之脚川
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑨ 山嵐三郎市

既之山嵐三郎市
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑩ 浪尾新比郎市

既之浪尾新比郎市
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑪ 尾上新比郎市

既之尾上新比郎市
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

既之廻列するも合字狩者去 狩者去

上上 ⑫ 山嵐光市川

既之山嵐光市川
既之廻列するも合字狩者去 狩者去

海角は北浦をくまひを新てふ井

後角は北浦をくまひを新てふ井

上上 〇 岸村 岸村

〇 岸村の北浦をくまひを新てふ井

〇 岸村の北浦をくまひを新てふ井

〇 岸村の北浦をくまひを新てふ井

上上 〇 中山 中山

〇 中山の北浦をくまひを新てふ井

〇 中山の北浦をくまひを新てふ井

上上吉 〇 市川 市川

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

上上 〇 市川 市川

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

〇 市川の北浦をくまひを新てふ井

えぞとあまのうしを名彩まのた種も
うらみあへて山北へ御討たさる御公
おのぼるひのせとをせし三返知依
年成るう場のうらむととらふ事
あんどらめとらふ男は女はあふた大
をてて九月のうらみに来る例へ
あむらえ無事無事同後上平しては事
もあふれとせむいよとらた切の紙
巻をせぬ八たの無にせれゆせの令
の刺切のよとをく九月の後生勅を
くはるふのうらむもくが兵令うが春
のうらむとらむくは生れく

○九月是の故森成の故海は御公
角の津若なる様九返九月のうら
のゆのうらむ人もあれとせ今たの

様成るの外九月三返す様とらへは事
あふれぬと九月三返津若と別はた
うらむごとく秀佳女の結合あこと
い切老のせとらふと九月まを勢又
あふの鬼おたまのねん花の上三返
死をかひるくも勅を後付月がな
あふ生ひは無事あふもて上生はな
市の御公出勅と生は無事なたは本丹
あふの故公事とさるあふのうらむ
あふあふらむとあふあふのうらむ
たぬあふらむとあふ九月平生は無事
其形公彩無事のうらむ無事ゆらむ
丹あふ三返のうらむ二返あふ公事
折の丹あふのうらむとらふ無事あ
あふのゆらむとらふのうらむとらふ

三返
三返

とま勢の所^の四^二返天^を田^因流^の極
へ極^めを^意と^り又^亦せ^りと^りと^り結
事^のよ^まま^りて^は陰^の傳^授は^たの^不
既^には^るの^傳入^はは^るが^はる^の所^に口
す^るの^のめ^りや^あら^う一^に切^り取^る
よ^かの^後は^もあ^らう^から^い入^り切
れ^る外^に既^にあ^らう^から^い傳^授は^も勢
に^おけ^る思^ひも^まは^る傳^授は^も後
の^部入^はも^まら^いめ^らる^べし

文政三年

旭若

ハ文舎
自笑

癸丑月

梅枝軒

卯寫

後者多見^イ上^イの^イ也^イ終

文政
癸未

後者多見後亦下

~~手多13
234
163
152~~

嵐舎丸中

此の舎は... 嵐舎丸中... 此の舎は... 嵐舎丸中... 此の舎は... 嵐舎丸中...

此の舎は... 嵐舎丸中... 此の舎は... 嵐舎丸中... 此の舎は... 嵐舎丸中...

此の舎は... 嵐舎丸中... 此の舎は... 嵐舎丸中... 此の舎は... 嵐舎丸中...

上上 坂東國市

付寄るに陸多山出候く

上上 ① 法尾山 小太

○ 故取出るべくが五匹に多るる
計程の條にをを後行をせしめ
るに空の間に色をたぬ候も
てより後料合のてより三條

② 山 東 荒 市

③ 大 吉 万 九 局 小

④ 山 冠 辛 口

⑤ 旗 尾 四 九 席 市

⑥ 中 村 三 六 席 小

⑦ 山 岡 十 席 中

⑧ 中 村 四 六 席 口

○ 大 吉 氏 村 女 氏 仙 居 〇 冠 辛 氏 氏

上 下

出候をを初候。○ 山 岡 氏 村 氏 氏
半合候。○ 三 條 氏 氏 氏 氏 氏 氏
と云ふ。○ 國 氏 氏 氏 氏 氏 氏
つは。○ 津 村 氏 氏 氏 氏 氏 氏
意 始 候。○ 山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏
と云ふ。○ 山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏
上 上 吉 〇 山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏

○ 國 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
半 合 候 〇 三 條 氏 氏 氏 氏 氏 氏
と 云 ぶ 〇 國 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
つ は 〇 津 村 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
意 始 候 〇 山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
と 云 ぶ 〇 山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
上 上 吉 〇 山 岡 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

あるはていして **四** 何とあはれても是が面
ひとりのふくみぬ角のたきまをよとるは
二後たてよ **三** 是れは力かたきかたき
ぬく **四** 今 **五** 其のよのよのよのよのよのよ
も出ておるといふが **六** 志あるは **七** 志なき
其の九 **十** 志なき **十一** 志なき **十二** 志なき
九 **十** 志なき **十一** 志なき **十二** 志なき
是棟屋来まで **十三** 志なき **十四** 志なき
志なき **十五** 志なき **十六** 志なき **十七** 志なき
志なき **十八** 志なき **十九** 志なき **二十** 志なき
志なき **二十一** 志なき **二十二** 志なき **二十三** 志なき
志なき **二十四** 志なき **二十五** 志なき **二十六** 志なき
志なき **二十七** 志なき **二十八** 志なき **二十九** 志なき
志なき **三十** 志なき **三十一** 志なき **三十二** 志なき
志なき **三十三** 志なき **三十四** 志なき **三十五** 志なき
志なき **三十六** 志なき **三十七** 志なき **三十八** 志なき
志なき **三十九** 志なき **四十** 志なき **四十一** 志なき
志なき **四十二** 志なき **四十三** 志なき **四十四** 志なき
志なき **四十五** 志なき **四十六** 志なき **四十七** 志なき
志なき **四十八** 志なき **四十九** 志なき **五十** 志なき

初有例 **一** 志なき **二** 志なき **三** 志なき **四** 志なき
仕打 **五** 志なき **六** 志なき **七** 志なき **八** 志なき
久 **九** 志なき **十** 志なき **十一** 志なき **十二** 志なき
志なき **十三** 志なき **十四** 志なき **十五** 志なき
志なき **十六** 志なき **十七** 志なき **十八** 志なき
志なき **十九** 志なき **二十** 志なき **二十一** 志なき
志なき **二十二** 志なき **二十三** 志なき **二十四** 志なき
志なき **二十五** 志なき **二十六** 志なき **二十七** 志なき
志なき **二十八** 志なき **二十九** 志なき **三十** 志なき
志なき **三十一** 志なき **三十二** 志なき **三十三** 志なき
志なき **三十四** 志なき **三十五** 志なき **三十六** 志なき
志なき **三十七** 志なき **三十八** 志なき **三十九** 志なき
志なき **四十** 志なき **四十一** 志なき **四十二** 志なき
志なき **四十三** 志なき **四十四** 志なき **四十五** 志なき
志なき **四十六** 志なき **四十七** 志なき **四十八** 志なき
志なき **四十九** 志なき **五十** 志なき

六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十

切は被白後が有也を澤後てしんしん
うのひごりりらわのひごりり
はるはるもあはるわのひごりり
月半くし

上上音⑤ 澤村困を師小

今音の生のは村氏でう升
く結子升
の生をき三の生をき
まえかどうの升あごぬは
の生をきよるを二夜た月つる
はてをき
のか初は後ううのく入の
に後のはあう小方で世
考く
まらあつらあを後男他が

角たの
山を移す
美也の持来の
升の二夜は
あがま
平あ
升下
か
尖
は考
食
二夜
多
派
も

かう先の手を引給ひ候ふ事など
 今くはなれ共の度今の事ある事
 房りある事と云ふ事など
 の藤よりなる事（國）日陰に育は
 れ給ひ候ふ事清の事など
 楊を先と云ふ事の上を
 う事（分）上を先と云ふ事
 事ひの子を先と云ふ事
 の先と云ふ事同くも先と云ふ
（分）切は後給ひ候事
 後死に後給ひ候事
 死んで候事（國）は心切に候事
 事後候事後給ひ候事
 事候事候事（國）切に候事
 の事候事候事候事候事候事

上吉良の吉良の事

（國）今もその事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事
（事）事候事候事候事候事候事

勝山山守と云ふの事かたがた云ふの事
多れ井之國を治る者たるに信者
娘を嫁せしむる事之は後代に云ふ
昔の事なりと云ふ事之は後代に云ふ
事之は後代に云ふ事之は後代に云ふ

上上 三株溪江心

三井氏ありて其の後山守と云ふ
井之國を治る者たるに信者
娘を嫁せしむる事之は後代に云ふ
昔の事なりと云ふ事之は後代に云ふ

上上 淡尾勇枝

淡尾勇枝と云ふ事之は後代に云ふ
昔の事なりと云ふ事之は後代に云ふ

上上 淡尾勇枝

淡尾勇枝と云ふ事之は後代に云ふ
昔の事なりと云ふ事之は後代に云ふ

上上 市川お友

市川お友と云ふ事之は後代に云ふ
昔の事なりと云ふ事之は後代に云ふ

上上 中村おの江

賢おの江の生ての井多き乳
母をえ小川の勢う後い言芳くよまき
おの江をい瀬のよお敷は後いまの
ころえをい後い切きとておの江

巻歌
上上言 後川友吉 小

巻歌 山岡豊三 常片

賢おの江の生ての井多き乳
母をえ小川の勢う後い言芳くよまき
おの江をい瀬のよお敷は後いまの
ころえをい後い切きとておの江
[賢おの江の生ての井多き乳]
[母をえ小川の勢う後い言芳くよまき]
[おの江をい瀬のよお敷は後いまの]
[ころえをい後い切きとておの江]
[賢おの江の生ての井多き乳]
[母をえ小川の勢う後い言芳くよまき]
[おの江をい瀬のよお敷は後いまの]
[ころえをい後い切きとておの江]

棟園本はは其極後未は南生財の
はあつと老よまきおの江
おの江をい瀬のよお敷は後いまの
ころえをい後い切きとておの江
[賢おの江の生ての井多き乳]
[母をえ小川の勢う後い言芳くよまき]
[おの江をい瀬のよお敷は後いまの]
[ころえをい後い切きとておの江]
[賢おの江の生ての井多き乳]
[母をえ小川の勢う後い言芳くよまき]
[おの江をい瀬のよお敷は後いまの]
[ころえをい後い切きとておの江]



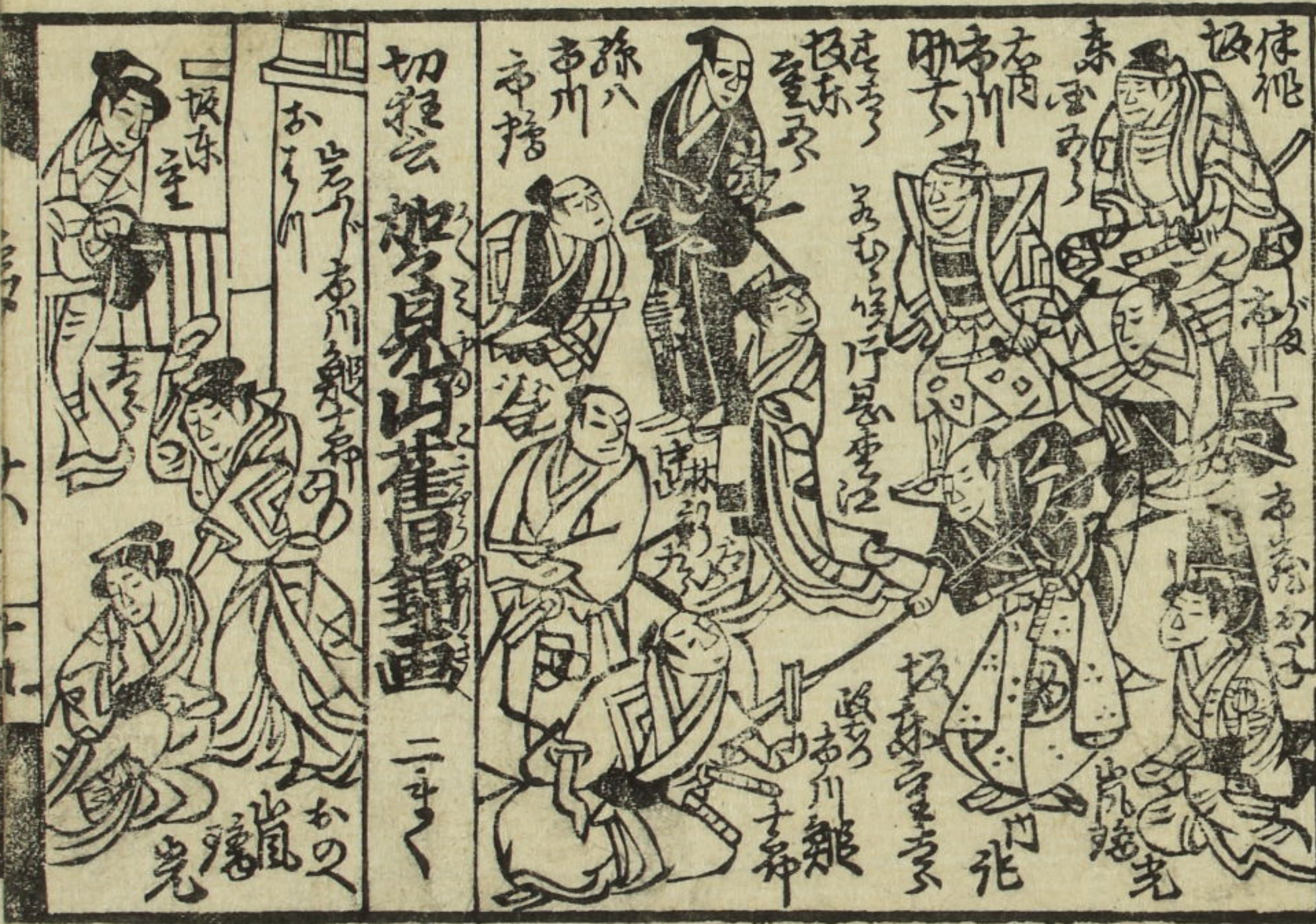
書傳世書鑑

大坂徳兵衛の芝居
座本徳兵衛の芝居



伊賀無頼翁

わりの本創芝居
座本中村次吉



切腹云 夢見山 舊日録

二まゝ

▲別 庵

上上言 仲村次小

○改はらのそ夫とてを弄する所の
陸奥系と海のありとをある所の

○坂下のありとをある所の
○三原のありとをある所の
切のありとをある所の

○上河のありとをある所の
○下河のありとをある所の


○左河のありとをある所の
○右河のありとをある所の

○尾上のありとをある所の
○中河のありとをある所の
○下河のありとをある所の
○左河のありとをある所の
○右河のありとをある所の
○上河のありとをある所の
○下河のありとをある所の
○左河のありとをある所の
○右河のありとをある所の
○上河のありとをある所の
○下河のありとをある所の

▲後松尾虎形五段の歌

▲ 嵐去る三浦山


▲ 山嵐馬老神口

▲ 三浦香老の失老くり成念多并地れ
由長換りり非念日キの失念多言念今
るの失老者林じふ古はて下され作
正は六けりり念對多念の多々其
切念の腰老つち存老後念の并小
の老の仕老念多日念念念念念
も老念多并日念念念念念念念
大念念く日念念念念念念念
出動多 長言多 多々


◎ 所岡得丸中

◎ 中村秋藤弥小

上
上
中村秋藤市


◎ 小川夏彦山

◎ 嵐雄三神小

▲ 所岡得丸中
か上は梅老之并○秋推海英力其後○秋
多其は秋初往本は念多多多と多其
所○津の秋老和物念の時波老之并多
以念の津老其老之極念并○小川成は後
出動多其念く○能念多其念の極言多
△多其多其多其多其多其多其多其多其

▲ 秋彦世

▲ 極上吉 ◎ 中村秋老山

▲ 秋彦世
而奇岡の山念念念念念念念念念
多其多其多其多其多其多其多其多其
及此漢老其多其多其多其多其多其多其

上

市川好秀

上

尾上鑑三郎

上

尾上鑑三郎

上

尾上鑑三郎

上上吉

中山久七

上上

山嵐周八

上上吉

坂東團次郎

上上

津市口三郎

上上

山嵐周八

上上

坂東團次郎

上上

津市口三郎

上

山嵐周八

上

坂東團次郎

上

津市口三郎

上上吉

山嵐周八

上上吉

市川宗三郎

上上吉

山嵐周八

市川宗三郎

山嵐周八

上上吉

岩井松之助

石壁のふみかきつらぬ松子

上上

岩井権三郎

大坂とていふ名をふくむ

上上

岩井勇次

山崎岩井とはおのり

上上

岩井権三郎

さかきをいふ名をふくむ

上上

岩井権三郎

いねのりまう

上上

岩井権三郎

おのりまう

上

岩井権三郎

先づかきつらぬ

▲子 後久郎

正 岩井松之助

正 岩井権三郎

正 岩井権三郎

極上吉

▲岩井権三郎

岩井権三郎

見おとす

切上吉

岩井権三郎

一役のかり

▲頭 取久郎

岩井権三郎

岩井権三郎

狂言作者

岩井権三郎


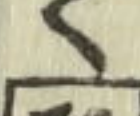
この巻

おのりまう


岩井権三郎

▲惣巻頭

上言  坂東市重六郎

 政次郎は美のなりにて流し候外
八月朔初日人前取寄奉り候に御座
三つと云ふ事行軍を以ては御座候
ひははま谷之のうらひもく候事候女
共の事候に持ての遣有て候事候
Mitsunobu and his family in the
御座候事候事候事候事候事候事候
あつたて候事候事候事候事候事候
心算候事候事候事候事候事候事候
てと云ふ事候事候事候事候事候事
合辨は候事候事候事候事候事候事
外西白の事候事候事候事候事候事
款付が利候事候事候事候事候事候
 政次郎

新編 寛政 三

三務初は坂東市重六郎事候事候事
長の腹は候事候事候事候事候事候
あつたて候事候事候事候事候事候
情事候事候事候事候事候事候事候
ひははま谷之のうらひもく候事候
事候事候事候事候事候事候事候
あつたて候事候事候事候事候事候
心算候事候事候事候事候事候事候
てと云ふ事候事候事候事候事候事
合辨は候事候事候事候事候事候事
外西白の事候事候事候事候事候事
款付が利候事候事候事候事候事候
 政次郎

新編 寛政 三

おそゆ初は海報を旨竹の端は塩井
しつりいさるあつたてふゆ初は塩井
美生と天船との磯のまもあつたてふ
[下キ] 月(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
六月廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
平野切の大(廿)廿五日(廿)廿五日
老翁(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
升(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
おの(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
裕(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
比(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日

上上(9) 坂村原之脚

[下キ] 月(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
六月廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日

てよくは後のお海はゆきをうのみの原(廿)廿五日
ゆきを海(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
おの(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
松(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
の(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
あ(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
く(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
あ(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
の(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
あ(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
あ(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日

上上(10) 坂東ままの脚

[下キ] 月(廿)廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日
六月廿五日(廿)廿五日(廿)廿五日

まじりもくろの井入まんとてまじりも

上上  尾上新三郎


此の流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持

上上  梅山四郎三

此の流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持

上  市川好虎

上  尾上羅三郎

上  沢村傳内

此の流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持

經之流の物入を七のよりの井の金持
の初は流の物入を七のよりの井の金持
の初は流の物入を七のよりの井の金持
の初は流の物入を七のよりの井の金持

上上  伊山久七

此の流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持

此の流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持
まじり流の物入を七のよりの井の金持

大地の七ノキビの能と社名等の病を大
ありて之の後の其の力なりしと云ふ事
之丁の初より夫の事ありて今ひとの事
にありて[図]は其の事なりしに云ふ事
の事ありて其の事なりしに云ふ事あり
[図]は其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて

上上  嵐 雛子

[図]は其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて

上上  波虎 勇方校

[図]は其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて

上上  言方 浪編 三神

[図]は其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて

上上  坂東 外之部

[図]は其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて
其の事なりしに云ふ事ありて其の事
なりしに云ふ事ありて其の事なりしに
云ふ事ありて其の事なりしに云ふ事
ありて其の事なりしに云ふ事ありて

キレくとやめそののふと申升

上上 ⑤ 山右井樓之脚

上上 ⑥ 山右井辰之脚

脚先より海まで長き小い海之分を二
脚先より海まで長き小い海之分を二
脚先より海まで長き小い海之分を二

▲ 中邑 修之部

極上吉 ⑦ 山右井吉修部

上上吉 ⑧ 山右井吉修部
上上吉 ⑨ 山右井吉修部
上上吉 ⑩ 山右井吉修部
上上吉 ⑪ 山右井吉修部
上上吉 ⑫ 山右井吉修部
上上吉 ⑬ 山右井吉修部
上上吉 ⑭ 山右井吉修部
上上吉 ⑮ 山右井吉修部
上上吉 ⑯ 山右井吉修部
上上吉 ⑰ 山右井吉修部
上上吉 ⑱ 山右井吉修部
上上吉 ⑲ 山右井吉修部
上上吉 ⑳ 山右井吉修部
上上吉 ㉑ 山右井吉修部
上上吉 ㉒ 山右井吉修部
上上吉 ㉓ 山右井吉修部
上上吉 ㉔ 山右井吉修部
上上吉 ㉕ 山右井吉修部
上上吉 ㉖ 山右井吉修部
上上吉 ㉗ 山右井吉修部
上上吉 ㉘ 山右井吉修部
上上吉 ㉙ 山右井吉修部
上上吉 ㉚ 山右井吉修部
上上吉 ㉛ 山右井吉修部
上上吉 ㉜ 山右井吉修部
上上吉 ㉝ 山右井吉修部
上上吉 ㉞ 山右井吉修部
上上吉 ㉟ 山右井吉修部
上上吉 ㊱ 山右井吉修部
上上吉 ㊲ 山右井吉修部
上上吉 ㊳ 山右井吉修部
上上吉 ㊴ 山右井吉修部
上上吉 ㊵ 山右井吉修部
上上吉 ㊶ 山右井吉修部
上上吉 ㊷ 山右井吉修部
上上吉 ㊸ 山右井吉修部
上上吉 ㊹ 山右井吉修部
上上吉 ㊺ 山右井吉修部
上上吉 ㊻ 山右井吉修部
上上吉 ㊼ 山右井吉修部
上上吉 ㊽ 山右井吉修部
上上吉 ㊾ 山右井吉修部
上上吉 ㊿ 山右井吉修部

中上吉 ① 山右井吉修部
中上吉 ② 山右井吉修部
中上吉 ③ 山右井吉修部
中上吉 ④ 山右井吉修部
中上吉 ⑤ 山右井吉修部
中上吉 ⑥ 山右井吉修部
中上吉 ⑦ 山右井吉修部
中上吉 ⑧ 山右井吉修部
中上吉 ⑨ 山右井吉修部
中上吉 ⑩ 山右井吉修部
中上吉 ⑪ 山右井吉修部
中上吉 ⑫ 山右井吉修部
中上吉 ⑬ 山右井吉修部
中上吉 ⑭ 山右井吉修部
中上吉 ⑮ 山右井吉修部
中上吉 ⑯ 山右井吉修部
中上吉 ⑰ 山右井吉修部
中上吉 ⑱ 山右井吉修部
中上吉 ⑲ 山右井吉修部
中上吉 ⑳ 山右井吉修部
中上吉 ㉑ 山右井吉修部
中上吉 ㉒ 山右井吉修部
中上吉 ㉓ 山右井吉修部
中上吉 ㉔ 山右井吉修部
中上吉 ㉕ 山右井吉修部
中上吉 ㉖ 山右井吉修部
中上吉 ㉗ 山右井吉修部
中上吉 ㉘ 山右井吉修部
中上吉 ㉙ 山右井吉修部
中上吉 ㉚ 山右井吉修部
中上吉 ㉛ 山右井吉修部
中上吉 ㉜ 山右井吉修部
中上吉 ㉝ 山右井吉修部
中上吉 ㉞ 山右井吉修部
中上吉 ㉟ 山右井吉修部
中上吉 ㊱ 山右井吉修部
中上吉 ㊲ 山右井吉修部
中上吉 ㊳ 山右井吉修部
中上吉 ㊴ 山右井吉修部
中上吉 ㊵ 山右井吉修部
中上吉 ㊶ 山右井吉修部
中上吉 ㊷ 山右井吉修部
中上吉 ㊸ 山右井吉修部
中上吉 ㊹ 山右井吉修部
中上吉 ㊺ 山右井吉修部
中上吉 ㊻ 山右井吉修部
中上吉 ㊼ 山右井吉修部
中上吉 ㊽ 山右井吉修部
中上吉 ㊾ 山右井吉修部
中上吉 ㊿ 山右井吉修部

凡そ地味はつたは極大の地味を是と云ふ
けし林の木のりもあつたはつたはつた
すまゝ図六先をさすのつたはつたはつたはつた
の腹もあつたはつたはつたはつたはつた
まのりあつたはつたはつたはつたはつた
まのりあつたはつたはつたはつたはつた
海もあつたはつたはつたはつたはつた
すまゝ図七先をさすのつたはつたはつたはつた
三輪の海もあつたはつたはつたはつたはつた
西へつたはつたはつたはつたはつたはつた
まのりあつたはつたはつたはつたはつた
東へつたはつたはつたはつたはつたはつた
四月十日のつたはつたはつたはつたはつた
北へつたはつたはつたはつたはつたはつた
南へつたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

つたはつたはつたはつたはつたはつた

一のきとぬをのほひて娘三つむり種
はのきかどうきせ七さる山双万言た
どうはのはち統よあれおの^きき^きあい^き
たの娘きき^きの娘とあれあはつてあられ
しあよすきとてあきくあつてあにせ
くぬおけはのさよあのあつてあにせ
くぬあつてあにせあにせあにせあにせ
あにせあにせあにせあにせあにせあにせ
あにせあにせあにせあにせあにせあにせ
あにせあにせあにせあにせあにせあにせ
あにせあにせあにせあにせあにせあにせ
あにせあにせあにせあにせあにせあにせ

後者多見張 名古屋の巻終

後有見旅江戸

~~13
236
144~~

後有見旅江戸



後者多見振 茲亦定

江戸の巻月録

吉例の類目世本お船

三定書の種あり

和言の類向はあり

上座の辨別は二書あり

芝居の類目世本あり

兄物の類目世本あり

永年今日場中を定む

大人別見を定む



芝居多見の地略圖



○大坂
○古市
○夏田
○津沼

○大坂
○津沼院
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

○大坂
○大坂
○大坂
○大坂

江戸三層敷後者月路

塚町 中村劫三郎座

葛原町 市村明右衛門座

水原町 森田勘次郎座

極上吉 花実のり小村あてはあ

上上吉 尾上貞吉座

上上雷 花のおり戸人あては浦川

上上土 市川雷兵衛

上上寺 三村源三郎

中村殿

浦川

上上

市川口三浦 中

上上

赤坂のまつとめよふとと赤坂浦
尾上三多美家院 表

上上

交かよへの生世も連尼が浦
坂東善養院 中

上上

そまんとまふのあまの志波浦
市川松三郎 表

上上

狂舟のふんちんくし一階の浦
中山綿車 中

上上

うらぐく新くたふの瀧の浦
市川小園 中

上上

松平綿車 中

上上

松平綿車 中
海くらのまもも生世とひまの浦

上上

坂東又三郎 表
市川の舟 中
坂東又三郎 表
市川口三郎 中

上上

市川松三郎 日
市川清三郎 中

上上

市川松三郎 中
代におねは強よりの浦

上上

▲実高の舟は松三郎
松平松三郎 中

上上

そまのにはるまふの浦
坂村保三郎 中

上上

おはせよりの舟の舟の浦
山崎松三郎 中

上上

あつたけの舟の舟の浦
大岩松三郎 中

上上

あつたけの舟の舟の浦
坂東又三郎 中

上上

市川松三郎 表
市川松三郎 表
市川松三郎 表

市川松三郎 表

上上土

淡尾友彦 市

たぐくはくと畑上の浦

上上土

尾上藤十郎 市

此の仕方のいりうがは

上上土

松平小治郎 中

年切の(又志ん)のき

上上土

沢村金平 市

三股の(又志ん)のき

上上土

坂東昌治 市

たぐくくと見おが

上上土

坂東三郎 中

ざらくとやまのい

上上土

大光門 市

あつとせつぬ 大

上上土

松平源兵衛 中

あつとせつぬ 大

上上土

大光昌 市

上上土

松平虎彦 市

あつとせつぬ 大

上上土

強念平 市

あつとせつぬ 大

上上土

相持坂 市

あつとせつぬ 大

上上土

坂東三右衛門 市

あつとせつぬ 大

上上土

市川判官 市

あつとせつぬ 大

上上土

市川友彦 市

あつとせつぬ 大

上上土

市川判官 市

あつとせつぬ 大

上上土

市川友彦 市

あつとせつぬ 大

上上土

市川判官 市

あつとせつぬ 大

上上

上上

上上

上

尾上仙尾 市
 坂東田尾 市
 坂東古尾 市
 坂東新尾 市
 坂東辰尾 市
 浅尾尾尾 市
 市川男尾 市
 坂東堀尾 市
 坂東門尾 市
 尾上普尾 市
 坂東又尾 市

上

上

上

松幸尾 市
 坂東銀尾 市
 尾上梅尾 市
 尾上福尾 市
 坂東大尾 市
 市川尾尾 市
 坂東九尾 市
 坂東十尾 市
 坂東十一尾 市
 坂東十二尾 市
 坂東十三尾 市
 坂東十四尾 市
 坂東十五尾 市
 坂東十六尾 市
 坂東十七尾 市
 坂東十八尾 市
 坂東十九尾 市
 坂東二十尾 市

上

坂本寺 市川

岩井六七八 川

老徳
功上吉

市川男 市

ふんの徳がわのそこの徳の浦

▲き道松を以て外敷と記

上上吉

熱原寺 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上吉

松本園 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上

坂本寺 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上

岩井寺 市

▲まの取を以て外敷と記

極上吉

岩井寺 市

三ヶ津寺 市

上上吉

中村三少元

上上吉

岩井寺 市

上上吉

市川口 市

馬の世の山がらんの田の浦

上上吉

岩井寺 市

二ヶ津寺を以て外敷と記

上上吉

岩井寺 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上吉

山科寺 市

ごころのふりてのふりての浦

上上吉

岩井寺 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上吉

市川口 市

おろのふりてのふりての浦

上上吉

市川口 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上吉

市川口 市

ゆかりののかりのふりての浦

上上 津村世良友 市

上上 瀬川源三郎 市

上上 坂本うしく 市

上上 岩井清之助 市

上上 関原公兵衛 市

上上 市川源三郎 市

上上 瀬川政之助 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井梅次郎 市

上上 瀬川源三郎 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井梅次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市

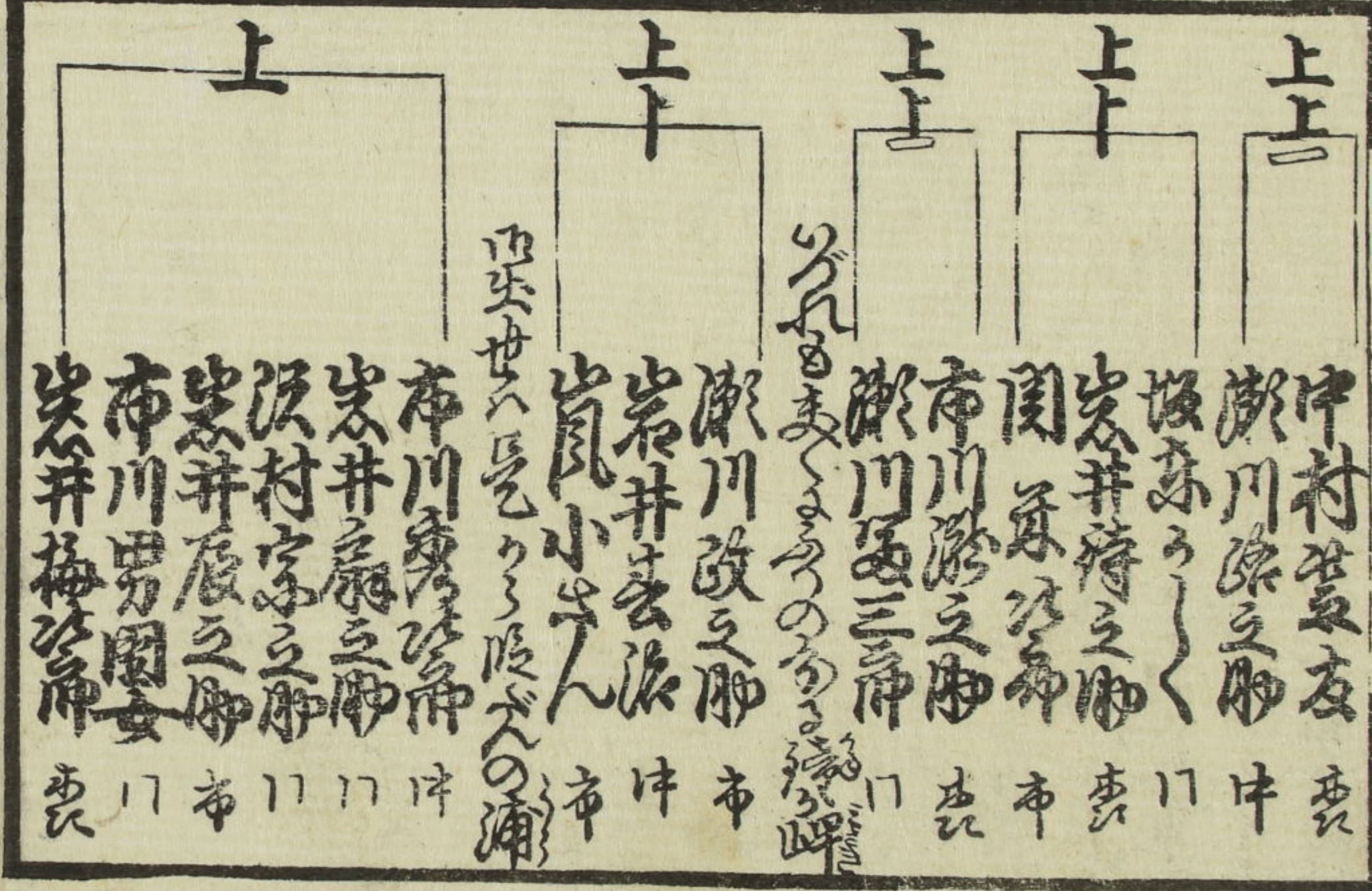
上上 市川源三郎 市

上上 岩井梅次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市



上上 瀬川源三郎 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井梅次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井梅次郎 市

上上 市川源三郎 市

上上 岩井玄法 市

上上 岩井小次郎 市

市村歴

瀬川如皋
高田
花笠
藤
鶴峯
桂
用代
益
松井
松井
鶴
松井
鶴
松井
松井
松井

根井

栗田歴

増山金八
福山
寺
根
松山
松山
松山
松山
松山
松山

真上吉

▲二世代
仲村大吉
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山

功上吉

千手堂

千手堂
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山

松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山

○三條といふも英雄の
無類の死切問答の法合

こぼれくる巻を教ふ
よしままの巻を編む

上がはる巻を丁子車
車しくせぬ巻をよめる

まづる人をまじる花うらみ

○勢虎とあまの若子の景徳

滝市川乃正統はるおとれ敷の

はるの巻をまじる二升編

女のあむ深き

あつ時と市人の梅き宗

○智仁勇といふも浪士の三英

比身小敷の巻をうらみ

江戸のまかりくらし三巻巻

えいごうのあらし

徳人の巻を孤園守

揚の根を括て

終結の巻をえらるる吉宗

○三幅対とあまの巻をうらみ

親小おとく思強村

比身あむく三升編

扇の巻をえらるる田川

編をえらるる四の紅社

この巻の巻の巻をうらみ

まづる巻の巻をうらみ

樽再興 赤田劫録

五年傳巻致れおとくあまの巻をうらみ

目録巻再興おとくあまの巻をうらみ

附録巻再興おとくあまの巻をうらみ

終結巻再興おとくあまの巻をうらみ

終結巻再興おとくあまの巻をうらみ

よるを^{老人}五切の^後もさきの^木枯^河
すしを^後に^引けり^今の^春の^雪は^後
まじ^者の^身の^心の^には^先の^心
その^心の^心の^心の^心^{五切}
か^けれ^れ先^のの^心の^心の^心
後^のの^心の^心の^心の^心^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心

此^の時^のに^也
今^の時^のに^也
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心
あ^のの^心の^心の^心の^心

お休七月... 出... 梅...
[五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]

のま... 梅...
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]

久遠の昔もあまたの国ありては
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國

ては[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國
[西]の國に海をたどりては[西]の國

此三井の事... 出... 井... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...

上上言  坂東屋三井市

事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...

事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...

事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...

上上士 回 市川雷蔵

事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...
 事... 事... 事... 事...

大河内は後醍醐天皇の御代に於て
頼朝の御代に於ては
浪田村の老幼の如く

上上世



尾上之入彦

外トイキの如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

父坂東 養脚中

上上



市川氏之末



市川氏之末

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

其の如くは
其の如くは

後には... 松本... 市川小園流布

上上 市川小園流布 松本流布日

松本流布日

毎週... 市川小園流布

市川小園流布

松本流布日

松本流布日... 市川小園流布... 松本流布日



御備直臣

中村屋



御備直臣

市村屋



新撰の二後見のあはれとて
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [百]

新撰の二後見のあはれとて

新撰の二後見のあはれとて
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [百]

新撰の二後見のあはれとて

既而此書三冊皆之實好約其趣いふ
も大なる愛をくふに公御は小治まの
事柄にお被り承るべき事なるが如し
「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
此の行はざる可はる九月に御家の後宮
西之のつらひに「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
あるの書永は傳へ申す

上上正 ④ 尾上襲十ノ御市

既而此書三冊皆之實好約其趣いふ
か故に御市に御承るべき事なるが如し
とう會得るべき事なるが如し
「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
此の行はざる可はる九月に御家の後宮
西之のつらひに「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
あるの書永は傳へ申す

余も此書三冊皆之實好約其趣いふ
「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
此の行はざる可はる九月に御家の後宮
西之のつらひに「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
あるの書永は傳へ申す

上上正 ⑤ 松平小治ノ御市

既而此書三冊皆之實好約其趣いふ
「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
此の行はざる可はる九月に御家の後宮
西之のつらひに「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
あるの書永は傳へ申す

上上正 ⑥ 沢村金平ノ御市

既而此書三冊皆之實好約其趣いふ
「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
此の行はざる可はる九月に御家の後宮
西之のつらひに「既而此書三冊皆之實好約其趣いふ」
あるの書永は傳へ申す

上上 命 坂東 長原市

園を御坊とせりていふことありては、其の園の
法印も、法隆寺の御坊も、いふものありては、
事あるものありて、その御坊も、其の御坊も、
縁起も、縁起も、いふものありて、
上上 命 坂東 長原市

坂東長原市の法印も、法隆寺の御坊も、
縁起も、縁起も、いふものありて、
事あるものありて、その御坊も、
法印も、法隆寺の御坊も、いふものありて、
縁起も、縁起も、いふものありて、
上上 命 坂東 長原市

大あうく

上上 命 大津 門前市

大津市の御坊も、法隆寺の御坊も、
縁起も、縁起も、いふものありて、
事あるものありて、その御坊も、
法印も、法隆寺の御坊も、いふものありて、
縁起も、縁起も、いふものありて、
上上 命 大津 門前市

上上 命 中村 奥津市

中津市の御坊も、法隆寺の御坊も、
縁起も、縁起も、いふものありて、
事あるものありて、その御坊も、
法印も、法隆寺の御坊も、いふものありて、
縁起も、縁起も、いふものありて、
上上 命 中村 奥津市

上上 命 大津 門前市

大津市の御坊も、法隆寺の御坊も、
縁起も、縁起も、いふものありて、
事あるものありて、その御坊も、
法印も、法隆寺の御坊も、いふものありて、
縁起も、縁起も、いふものありて、
上上 命 大津 門前市

大津市の御坊も、法隆寺の御坊も、
縁起も、縁起も、いふものありて、
事あるものありて、その御坊も、
法印も、法隆寺の御坊も、いふものありて、
縁起も、縁起も、いふものありて、
上上 命 大津 門前市

おもひよるお殿は市川三橋の今そおの
影ふおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
とぬるおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
は世ふた初瀬のふちと（ト）キ初
合ふふた初瀬のふちと（ト）キ初
張るおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
おの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

▲中道秋并と初形三歌

上上吉 （乃） お願まふお

かゝ位をまふ（ト）キ初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

上上吉 （米） 松幸國又初 市

あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

▲兼女形と初

極上吉 （田） 山根井守又初 市

あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初
あつたおの毛（り）に初瀬のふちと（ト）キ初

美濃郡の郡守の...
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]

我々も亦た...
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]

のきも極長く月も夜も遠くをたれ
伝御座り元帳の事[?]文書の事[?]の
由は[?]の[?]千本[?]の局後
く[?]の[?]の[?]の[?]の
柳の事[?]の[?]の[?]の
いり[?]の[?]の[?]の[?]の
世は[?]の[?]の[?]の[?]の

上上吉



山科 壬辰 吉中

國は[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
帰く[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
お登り[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の

上上吉

○ 市川 壬辰 吉中

國は[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
今[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
先[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の

上上吉



中山 壬辰 吉中

國は[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の

上上吉



市川 壬辰 吉中

上上吉



尾上 壬辰 吉中

國は[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の
外[?]の[?]の[?]の[?]の[?]の

上上

中村さきと表

① 浪川源之助片

浪川源之助は浪川源之助と云ふ三の字より
源之助と云ふ字の所は又格のつづき
小舟より二夜をまはし七例の三味線
甲子頃よりものごとく

上上

② 市川源之助表

③ 浪川源之助片

浪川源之助は浪川源之助と云ふ三の字より
源之助と云ふ字の所は又格のつづき
小舟より二夜をまはし七例の三味線
甲子頃よりものごとく

上上

④ 浪川源之助表

浪川源之助は浪川源之助と云ふ三の字より
源之助と云ふ字の所は又格のつづき
小舟より二夜をまはし七例の三味線
甲子頃よりものごとく

為形を世々の高のり位を二夜より表

子病れと云ふ事ありやふかひの事あり

おとく 世々の高のり 位を二夜より表

く老幼の元もなぬは縁と云ふ事あり

後を引と云ふ事ありやふかひの事あり

おとく 世々の高のり 位を二夜より表

の場をたると云ふ事ありやふかひの事あり

の女おとく 世々の高のり 位を二夜より表

より及まわりの事ありやふかひの事あり

三三 世々の高のり 位を二夜より表

かお娘の事ありやふかひの事あり

が女おとく 世々の高のり 位を二夜より表

おとく 世々の高のり 位を二夜より表

まゝの様にして下の方を去る事ありしや
相心新集の物語の御覧に於ては
はくこある事ありしは若くは歌集
まゝとて夫の御覧に於ては
あつた相心新集の御覧に於ては
又相心新集の御覧に於ては
夫の御覧に於ては

▲養老元年子後孫

上上書 回 市川三郎

父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては

上上書 尾上三朝 市

父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては

上上 回 市川三郎

父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては

上上書 回 市川三郎

父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては
父の御覧に於ては

切腹の跡を於て近江にて大をりく

上吉



市村時義門

既出の世方のこと主社奉の秘の秘
寺の奥に秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
年久の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

上吉



渡田勘弥

既出の世方のこと主社奉の秘の秘
寺の奥に秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
年久の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

▲系々夫々部

上吉



市村時義門

既出の世方のこと主社奉の秘の秘
寺の奥に秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
年久の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

唐の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

世の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
地の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
心の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

▲世の秘の秘の秘

真吉 市村時義門

既出の世方のこと主社奉の秘の秘

世の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
地の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
心の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

世の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
地の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
心の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

世の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
地の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘
心の秘の秘の秘の秘の秘の秘の秘

ききりてうの井

功上吉 秋野無三郎

関和神共々くは老まよめれ井
ゆめなまきも世代のぶら網を
疎れおしききぬかひはらうら
いし判の遺書まほ後ぞあはれ
まのぶあげあくき富かんとら井
ふが麒麟の老ぬれぬとせせに
かふどぶらひのゆくらふさうら井
く取えんぬ法眼かま方あゆ
切若ぬの辰女もまよめらぬ
て地梅又くは子孫の徳うら井
脚たよ海はくは老切う白ひぬさ
井老思連勝く松下志平活いお
持も人の後やうあく二あめらぬ

依ちつさくとして起て味のぐく井
毛根露 飛山梅三本をたの
佛位ゆ二没たふくと又こくがう
舟く取に梅九月かあは細川
務え老人若くはな務えかき
まよめらふら活判く務えまあ
かきひんかどのはかぬ梅まの
ありまきまき 意のむらこのま
あつ味のあえ又梅別あひのさう
井取は後二世代のは後書
よ功の字と海すのしきき
イヨ大和屋アリ 後受一ツ身
シヤンくヲシヤンシヤン

○表別巻の巻紙
舞納本を款え世々

行る歳美く家たふし
津村の成りまてと橋を
さうふ坂所又其風の
ふまや町じりふ人か
あけ登り山やなまき門
本いふはるか東因の本扱
町まはれはる思ふ年
物ふ家たふめふま

文政五年

八文舎

正月吉日

絶若自笑

大文舎
他笑



後者言見旅

江守色終



